日米交流かかし作り　人気投票の結果を発表



金賞に輝いたハローキティパワーチーム

7月17日に開催された東北防衛局主催の「かかし作り交流プロジェクトinつがる2026」において、米陸軍車力通信所と車力小学校（佐々木綾子校長）の5年生が制作したかかしの表彰式が行われました。

見事金賞に輝いたのは、ハローキティパワーチームが制作した「吉田 Saori～れいちょうるい最強の女～」という作品です。金賞を受賞したチームの松橋来幸さんは「大きなリボンを頭につけたのがポイント。金賞を取れてうれしい」と喜びを語り、米陸軍車力通信所所長のリシャド・リーダス大尉は「児童たちがデザインしたかかしを作ったのがとても楽しかった。今回のように交流することで温かい気持ちになり、幸せな時間を過ごすことができた。来年もまた引き続き参加することを楽しみにしている」と話しました。

ゆるキャラたちが真剣勝負を繰り広げる

「第11回青森県全国ゆるキャラすもう大会」が開催され、県内各地のゆるキャラたち17体が出場し、熱戦を繰り広げました。

昨年度優勝した鶴田町の「つるりん」の土俵入りや小学生による取り組みが大会前に行われ会場を盛り上げました。

相撲大会では、ゆるくない本気の勝負に、観客からは大きな声援が送られ、今年度は鰺ヶ沢町の「でかわさ」が頂点に輝きました。決勝は昨年度と同じ顔合わせとなり、「つるりん」を豪快に押し倒し、昨年度の雪辱を果たしました。

五所川原市から訪れた女性は「つがーるちゃんを応援していたので負けてしまったのが残念。来年こそは優勝してほしい」と感想を話しました。



「でかわさ」と「つるりん」の決勝戦

縄文時代を楽しみながら感じる



キーホルダー作りに真剣な参加者

民間団体「じょうもんズ」（徳田幸江代表）が木造駅横の縄文公園で「JOMONふぇす2026」を開催し、多くの来場者が訪れました。

本イベントは、約1万年間、大きな争いもなく、平和であった縄文時代について、楽しみながら体験し、今の時代へと繋げることを目的としています。

火おこしやボディーペイントといった体験コーナーのほか、キーホルダーや缶バッチを作るワークショップが行われました。また、縄文に関するグッズ販売やさまざまな飲食店が並び、子どもから大人まで楽しんでいる様子でした。

この日、火おこし体験をした向陽小学校5年生の藤本紗衣さんは「木を押したり引いたりし続けたので力をいっぱい使った。実際に火が付くとは思わなくてびっくりした。昔の人は毎日火おこしをしていたと聞いて大変だと思った」と感想を話しました。

異文化や姉妹都市について楽しく理解

姉妹都市協会（清野幸喜会長）が異文化や姉妹都市交流への理解を深めてもらおうと、国際交流フェアを開催しました。本市や近隣市町の国際交流員（CIR）と外国語指導助手（ALT）が運営に協力し、会場は多くの家族連れで賑わいました。

この日、バンパイアカップケーキやパンプキンチーズボールなどのハロウィンフードが無料でふるまわれたほか、おばけのバルーンアート体験コーナーや、箱の中身を当てる「ミステリーボックス」、学びながら楽しみめる「チェスボロー号かるた」など、さまざまな催し物が来場者を楽しませました。

柏小学校4年生の増田瀧心くんは「ミステリーボックスが一番楽しかった。外国の料理もすごくおいしかった。来年もまた来たい」と笑顔で話しました。



チェスボロー号かるたを楽しむ参加者

明治安田から市に4度目の寄付



倉光市長に目録を手渡す日野支社長

明治安田生命保険相互会社青森支社は、地域住民の健康づくりや暮らしの充実を支援するため、「私の地元応援募金」として市に91万9600円を寄付しました。

これは、同社が展開する「地元の元気プロジェクト」の一環として実施されたもので、従業員が自身の出身地やゆかりのある地域に対して募金を行い、その金額に会社の拠出金を上乗せして全国の自治体などへ寄付しています。

この日、贈呈式が行われ、日野研太支社長は「健康や福祉、子育てなど、さまざまな取り組みに役立てていただければ幸いです」と話しました。

倉光市長は「いただいた支援金を十分に活用し、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります」と感謝を述べました。

秋の火災予防運動　火の用心を呼びかける

10月19日から25日までの7日間、「火の確認　いい日を支える　いい習慣」を全国の防火標語とし、秋の火災予防運動が実施されました。

この運動は、火災が発生しやすい時季を迎えるに当たって、火災予防の思想普及、火災発生の防止を目的に毎年行われ、本市では初日に消防団員による火災予防パレード出動式が行われました。

出動式では、倉光市長が「空気が乾燥し、火災が発生しやすい季節となった。本日のパレードを通じて、火災予防の大切さを市民の皆さまへ広く呼びかけ、地域の安全・安心につなげていただきたい」と団員を激励。三浦孝純消防団長から訓示を受けた団員らは、一斉に消防車両に乗り込み、住民に火災予防を呼びかけるパレードに出発しました。

【ストーブなど火を扱う機会が多くなる季節、火の用心を心がけましょう】



出動式に臨む消防団員たち